

## 第IV章 遺跡の基本層序

### 第1節 遺跡の基本層序(第3～4図)

遺跡全体の基本層序について記載する。なお、第4図に各地区の基本層序柱状図と土色を掲載した。

#### 第I層 黒褐色土(10YR3/1)

表土で遺跡全体を覆っている。耕作により攪拌を受けている層と攪拌の及ばない層とに分層できる。台地縁より入り込んだ沢地に厚く堆積する。層厚30cm～60cmを測る。

#### 第II層 黄褐色火山灰層(10YR5/6)

地質学的には「十和田a降下火山灰」と呼ばれている。『大湯町環状列石』報告書では「大湯浮石層」と称した。十和田火山(湖)を噴火起源とする発泡の進んだ軽石で、粒径が大きいもの(重量があるもの)ほど下層に、シルト質なものほど上層に堆積し、これによってIIa層～IIc層に細分することができる。本来は遺跡全体を覆っていたものと考えられるが、耕作などによって攪拌を受け消失している場所もある。層厚3cm～15cmを測る。配石遺構や立石遺構については、本層上面でその露頭を確認できるものもある。

「十和田a降下火山灰」の降下時期については、これまでの調査例から平安時代中頃、10世紀前半とされている。なお、滋賀県比叡山延暦寺の僧侶が残した『扶桑略記』の記事から、この噴火は延喜15年7月とも言われている。噴火と同時に流出した毛馬内軽石質火山灰(毛馬内火砕流)は米代川を下り、大館地区・鷹巣地区では家屋(鷹巣町 胡桃館遺跡)を飲み込みながら能代平野まで達している。北秋田郡比内町本道端遺跡では最大で95cmの毛馬内軽石質火山灰の堆積層が観察されている。

第III層 黒色土(10YR2/1)、暗褐色土(10YR2/3)、黒褐色土(10YR2/2)を基本的な堆積層とする。土色、混入物、シマリなどからIIIa層～IIId層に細分することができる。また史跡が広大なためIIIa層～IIId層間に間層を挟む地域もある。

#### IIIa層 黒色土(10YR2/1)

不純物をほとんど含まないシルト質の堆積層である。IIc層直下にあり、堆積土中最も硬くしまっている。遺跡のほぼ全域にみられ、層厚5cm～10cmを測る。

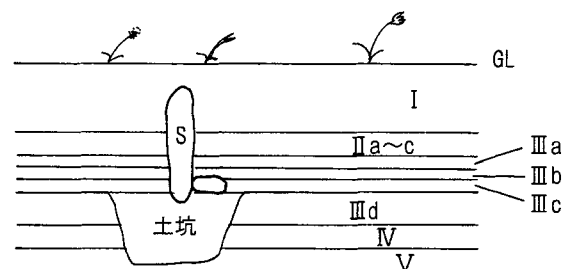
#### IIIb層 黒色土(10YR2/1)

IIIa層と土の粒径、色彩とも同一であるが、IIIa層ほどしまりが強くない。遺跡のほぼ全域にみられ、層厚5cm～10cmを測る。

#### IIIc層 暗褐色土(10YR2/3)

黒色土中にサンドイッチ状に挟まれたシルト質の堆積土である。層厚5cm～10cmを測る。

環状配石遺構のように構築時期が



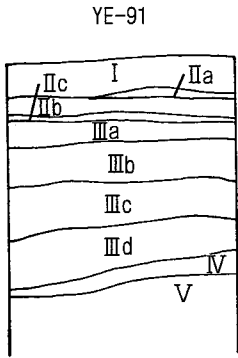
第3図 遺跡の基本層序

万座隣接地

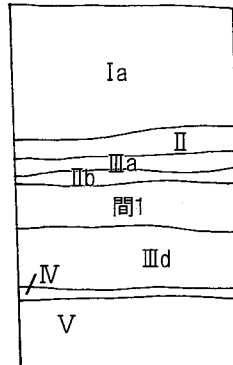
万座隣接地基本層序

万座北側地区

万座北側地区基本層序



- I 層 黒褐色土 (10YR2/2)  
耕作土
- IIa層 ぶい黄褐色火山灰 (10YR4/3)  
軽石質火山灰層・シルト質
- IIb層 黄褐色火山灰 (10YR5/6)  
軽石質火山灰層・粒径が粗い
- IIc層 黒色土 (10YR2/1)  
軽石質火山灰を含む  
混入物なし、堅くしまる
- IIIa層 黒色土 (10YR2/1)  
IIIa層より柔らかい
- IIIb層 黒色土 (7.5YR2/1)  
後期前葉～中葉の遺構構築面
- IIIc層 黒褐色土 (7.5YR3/1)  
後期前葉の遺構構築面
- IIId層 暗褐色土 (10YR3/3)  
地山直上の堆積層
- IV 層 黄褐色火山灰 (10YR5/6)  
甲ヶ野火山灰層、台地の基盤層
- V 層 黄褐色土 (10YR5/6)



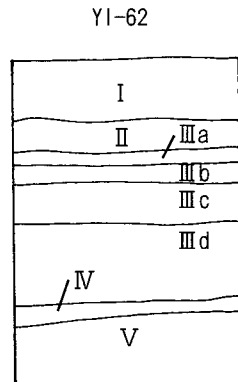
- Ia層 黒褐色土 (10YR2/2)  
耕作土
- Ib層 黒色土 (10YR2/1)  
耕作土、浮石粒混入
- IIa層 大湯浮石層  
樹木の根の擾乱が激しい。
- IIb層 黒色土 (10YR2/1)  
混入物なし、堅くしまる
- IIc層 黒色土 (10YR2/1)  
IIa層より柔らかい
- IIId層 黒色土 (10YR2/1)  
後期前葉の遺構構築面
- IV 層 暗褐色土 (10YR3/3)  
地山直上の堆積層
- V 層 黄褐色火山灰 (10YR5/8)  
甲ヶ野火山灰層、台地の基盤層
- 間1層 黒褐色土 (10YR2/3)

万座西側地区

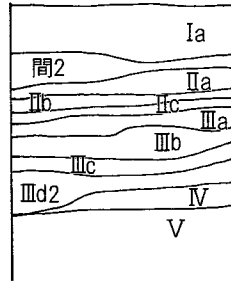
万座西側地区基本層序

万座南側地区

万座南側地区基本層序



- I 層 黒色土 (10YR2/1)  
耕作土
- II 層 淡黄褐色土 (2.5YR8/4)  
大湯浮石層
- IIIa層 黒色土 (10YR1.7/1)  
混入物なし、堅くしまる
- IIIb層 黒色土 (1.7YR2/1)  
IIIa層より柔らかい
- IIIc層 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
- IIId層 黒褐色土 (10YR2/2)  
地山粒を含む、遺構確認面
- IV 層 オリーブ褐色土 (2.5YR4/4)
- V 層 明黄褐色土 (10YR6/8)



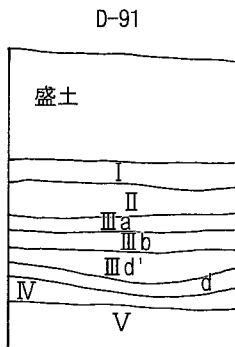
- Ia層 黒褐色土 (10YR2/2)  
耕作土
- Ib層 黒色土 (7.5YR2/1)  
軽石質火山灰を含む
- IIa層 ぶい黄褐色土 (10YR5/4)  
シルト質火山灰
- IIb層 黄褐色土 (10YR5/8)  
粒径が粗い
- IIc層 黒色土 (10YR2/1)
- IIId層 黒色土 (10YR1.7/1)  
混入物なし、堅くしまる
- IIIa層 黒色土 (7.5YR2/1)  
III・a層より柔らかい
- IIIb層 暗褐色土 (7.5YR2/2)
- IIIc層 黒褐色土 (7.5YR2/2)
- IIId1層 黒褐色土 (10YR2/2)
- IIId2層 黒褐色土 (10YR2/2)  
地山粒を含む、遺構確認面
- IV 層 暗褐色土 (10YR3/3)
- V 層 明黄褐色土 (10YR5/8)
- 間1 黒色土 (10YR2/1)
- 間2 黄褐色土 (10YR5/6)

野中堂隣接地

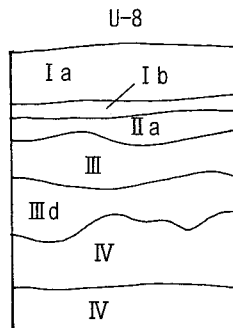
野中堂隣接地基本層序

一本木後口地区

一本木後口地区基本層序



- 盛土 国営調査時の排土  
I 層 黒色土 (10YR2/1)  
耕作土
- II 層 大湯浮石層  
シルト質火山灰層
- IIIa層 黒色土 (10YR2/1)  
混入物なし、堅くしまる
- IIIb層 黒色土 (10YR2/1)  
IIIa層より柔らかい
- IIIc層 黒褐色土 (10YR2/3)  
地山粒を含む、遺構確認面
- III d'層 黒褐色土 (10YR2/3)  
地山粒を含む
- IV 層 暗褐色土 (10YR3/3)
- V 層 黄褐色土 (10YR5/8)



- Ia層 黒褐色土 (7.5YR3/1)  
耕作土、植物根多量
- Ib層 黒色土 (10YR2/1)  
軽石を少し含む
- IIa層 ぶい黄褐色土 (10YR4/3)  
粒径が粗い
- IIb層 オリーブ褐色 (2.5YR4/6)  
シルト質
- IIc層 ぶい黄褐色 (10YR6/3)  
粒径が粗い
- II d層 ぶい黄褐色 (10YR5/3)  
粒径が粗い
- II e層 明黄褐色 (10YR6/6)  
径1~3cmの軽石
- IIIa層 黒色土 (7.5YR2/1)  
混入物なし、堅くしまる
- IIIb層 黒色土 (10YR1.7/1)
- IIIc層 黒色土 (10YR1.7/1)  
調査区北側に主に分布
- III d層 黒褐色土 (7.5YR1.7/1)
- IV 層 黒褐色土 (10YR2/3)
- V 層 黄褐色土 (10YR7/6)



第4図 各地区の基本層序

縄文時代後期中葉のものは本層を構築面とし、掘り抜いて構築される。

#### Ⅲd層 黒褐色土(10YR2/2)

黄褐色土(第Ⅴ層)の小さなブロックや粒子を含んだ層で、層厚10cm～20cmを測る。構築時期が後期前葉のものは本層を掘り抜いて構築される。後期前葉の土器などを含む遺物包含層であり、下層に移るにしたがって遺物の量は減少する。

各遺構分布図に、これまでの調査によって得られたデータをもとに作成した等高線を添付した。

環状列石ののる台地は東側から西側に向けて緩やかに、起伏を持ちながら傾斜している。この起伏は台地縁のいたるところから入り込んだ沢によって作り出されたものである。万座環状列石の構築場所は台地の中央部で、最も平坦地が広がった地域である。また、野中堂環状列石は台地中央から東側に緩やかに傾斜した斜面に位置するが、列石周辺の等高線は不自然な曲線を描いている。さらに同列石の北東側隣接地に設定したトレンチでは第Ⅴ層上面より遺物が出土しており、このことからある程度の整地が行われていたものと考えている。

#### 第Ⅳ層 褐色土(10YR4/4)

黄褐色土のブロックや粒子を多量に含んだ層で、遺跡全体を覆っている。層厚は10cm～20cmを測る。

#### 第Ⅴ層 黄褐色土(10YR5/6)

十和田火山(湖)を噴火源とする火山灰層である。地質学的には「申ヶ野軽石質火山灰層」と呼ばれ、遺跡周辺では層厚1m～2mを測る。掘り込みが深いフラスコ状土坑、Tピットは本層を突き抜けているものもある。

本層下には、この台地の基盤を構成する礫層(鳥越軽石質火山灰層)が存在する。